福祉国家日本とホームレス型貧困

外国語学部ドイツ語学科４年
A9852005　藤原朋子

はじめに

本論の目的は、ホームレス問題を、福祉国家としての日本社会の構造と照らし合わせ、考察することにある。貧困の定義はさまざまあるが、ホームレス状態の貧困は「低収入・低所得」というだけでは捉えきれない、複合的な貧困である。また、それをめぐる人々の反応や、行政の対応もまた問題をつくる一端となっている。ホームレスという貧困を生み出した現代社会の要因、この問題をめぐる現在の行政サイドのうごき、今後の課題を考えていきたい。

構成として、第 1 章で、日本のこれまでの福祉政策からみて、ホームレス問題がどのように置かれていたかについて言及する。第 2 章で、日本におけるホームレス問題をめぐる最近の動きを述べる。第３章でホームレスの人々と福祉国家の関係をとりあげ、ホームレス型貧困についての分析をする。第４章は、結論として、現在の福祉政策と現代社会の我々自身への提言を盛り込む。

第４章　提言

第１章から第３章にわたり、ホームレスをめぐる行政、福祉国家との関わりをみてきた。現行のシステムに則して、改善すべき点をふくめ、提言をしたい。

① 行政は支援を要する当事者を、社会的な帰属をみて判断するのではなく、一個人として扱うこと。
② 財政分担からくる、支援の地域格差はなくすこと。

の以上は、社会福祉行政を今後行ううえで、改革すべき２点であると私は考える。

おわりに

改めて、ホームレスが、まさに我々が帰属する社会で起きているのだと認識する必要があると感じた。彼岸の現象ではない。人生において、居住、家族、職業といった帰属性の喪失は、誰しも経験する可能性があることだ。

今回、自立支援法でホームレスが定義づけられた。これは支援の対象となる者を明確にしたといえる。これにより、一般市民の間で、ホームレスとホームレスでない人の棲み分けを生んでしまうのではないかという危惧をいま私自身は感じている。新聞などでも、「ホームレス暴行死」と痛ましい事件の報道においても、ホームレスをどこかで客体とみる意

識が読み取れる。

ホームレス問題をめぐる議論を通して見えてくるのは、我々の社会の構図であり、一人一人の考え方なのだと思う。結局、我々が今後どういう社会を築いていくのかという議論に帰結する。

次に、注釈、参考文献等を記載するが、行政側のコメントや動きに関しては、厚生労働省、東京都の関係部署への電話調査、直接訪問で知り得たことが多々ある。すべての情報源特定が難しいことはご了承頂きたいと思う。

参考文献

・藤村正之、杉村宏、庄司洋子編　『貧困・不平等と社会福祉』　有斐閣　1997 年
・岩田正美著　『ホームレス/ 現代社会/ 福祉国家』　明石書店　2000 年
・東京都福祉局　『ホームレス白書』　2001 年
・日本住宅会議編　『住宅白書 2000』　ﾄﾞメス出版　2000 年
・東京大学出版会編　『社会調査の公開データ　二次分析への招待』　2000 年
・クリストファー・ジェンクス著　『ホームレス』　図書出版社　1995 年
・青木秀男著　『現代日本の都市下層』　明石書店　2000 年